

アマゾンドットコム (AMZN)

【セクター】 インターネット通販

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

ネット通販事業を北米のほかドイツ、日本、英国など先進国を中心に展開する世界的大手です。取扱商品を書籍、各種メディアから、家電、日用品、衣料品などへ広げることで成長し、生鮮食料品や医薬品にも拡大しようとしています。クラウドサービスではITサービスの専門企業を抑えて世界トップシェアを誇り、利益の成長を牽引しています。また、人工知能「Alexa」を搭載するスマートスピーカーの「Echo」は、ホームオートメーションの要になる可能性が注目されます。

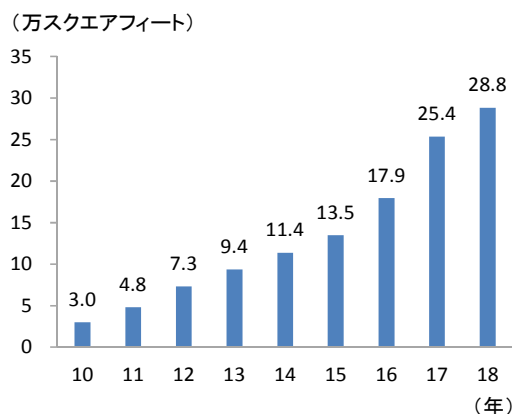
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
17年12月期	177,866	2,248	4.56	0.00	57.3	9.6	21.1
18年12月期	232,887	10,079	20.15	0.00	88.7	28.3	26.8
19年12月期予想	278,883	16,457	31.62	0.00	127.4	29.3	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【主要指標】

図表1 倉庫・店舗・オフィス面積



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

図表2 事業別の売上と伸び（19年7-9月期）

事業	売上 （億ドル）	前年 同期比
オンライン販売	350	21%
リアル店舗	42	-1%
サードパーティ・セラー・サービス	132	27%
サブスクリプション・サービス	50	34%
AWS（クラウドサービス）	90	35%
その他（広告収入など）	36	44%
合計	699	24%

（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

売上は大きめに北米事業が約6割、海外事業が約3割、クラウドのアマゾンウェブサービス（AWS）が約1割の構成ですが、営業利益はそれぞれ73億ドルの黒字、21億ドルの赤字、73億ドルの黒字と、利益ではAWSと北米事業が同程度の重みをもっています（18年12月期）。足もとで売上の伸びを牽引しているのは、サードパーティ・セラー・サービス（配送請負などの手数料）、サブスクリプション・サービス（プライム会員の会費など）、AWS、広告収入などです（図表2）。

【見通し・注目点】

ネット通販ではプライム会員向けの無料配送日数を従来の2日から1日に短縮しようとしています。この動きは安定した売上の増加と市場シェアの獲得につながり、中期的には利益をもたらすと見られますが、短期的には投資がかさんで利益を抑える要因になっています。一方、他のネット企業からシェアを奪っているとして市場で注目が高まっている広告収入の実額（現在は「その他」に合算されています）や利益率などが開示されると株価バリュエーションにプラスに効く可能性があると考えられます。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 19/10/30）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。